

## 令和6年度 園評価書

|                |                           | 園番号                                            | 33                                                                                                                                                                            | 園名   | 庵原こども園 |                                                                       |                                                                                                                                                                                                                          |            |                    |
|----------------|---------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|--------------------|
| Ⅰ 経営の重点に関わること  |                           | 評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない） |                                                                                                                                                                               |      |        |                                                                       |                                                                                                                                                                                                                          |            |                    |
| 1              | 教育・保育目標                   | 2                                              | 重点目標                                                                                                                                                                          | 評価指標 | 園説明    | 自己評価                                                                  | 関係者評価                                                                                                                                                                                                                    | 園関係者評価委員から | 改善策（来年度の具体的な取組目標等） |
| 豊かな心で<br>よく遊ぶ子 | 自分の“好き”<br>を満足するまで<br>楽しむ | 安心して自分の思いを表現し、好きな遊びを楽しむ                        | 安心してできる保育教諭との信頼関係の中で自分の思いを出し、受け止めてもらいながら好きな遊びを十分に楽しむ姿がみられた。友達や保育教諭がやっている遊びに興味を示し、「やってみたい」と夢中になって遊ぶ姿もある。                                                                       | A    | A      | ・色々な教材を用意し、子どもが伸び伸びと自由に楽しむことができる環境を用意している                             | ・保育教諭だけではなく、異年齢間でも気持ちを受け止めてもらいながら、好きな遊びを夢中になって楽しむ姿が見られた。来年度も引き続き、気持ちに寄り添い信頼関係を築き、子どもが安心して思いを出せるようにしていきたい                                                                                                                 |            |                    |
|                |                           | 「やってみたい」「遊びたい」遊びを見つけ、友達と楽しい思いを広げていく            | 朝の遊び出し環境を整え、昨日の続きができるようにしたり、子どもたちの興味関心を捉えて教材を用意し、製作が自由に楽しめる環境を作ったりすることで子どもたちが「やってみたい」「遊びたい」という意欲をもって遊べるようになってきた。また園内研修の中で教材研究や子どもの姿の見取りを行うことで、より子どもの発達に合った遊びの環境づくりができるようになった。 | B    | A      | ・職員が声を掛け、見守り、気持ちを受け止めていく<br>・子どもの興味関心を見取り、色々なことが試せる環境を用意し、意図的に関わらせている | ・園内研修の中で教材研究の時間を設ける等改善することで、発達に合った道具や遊びの経験の積み重ねを踏まえた遊び環境の話し合いができるようにしていきたい<br>・職員会議や園内研修で、今やっている遊びや子どもの姿について紹介し、遊びのヒントやアドバイスをもらうことで、子どもの発達や思いに寄り添った遊びが提供できるようにしていく<br>・子どもの興味関心や発達に合った教材を用意し、自分で考えたり試したりできるような環境の工夫をしていく |            |                    |
|                |                           | 様々な遊びに興味をもち、試したり工夫したりしながら、経験を積み重ねていく           | とつき棚の場所を子どもの発達を考慮して移動したり、玩具倉庫を整備したりする中で、子どもが自分で遊びを見つけ楽しめるようになり、その中で試したり工夫したりしながら遊びの経験を重ねている。園内研修を通じて保育者が子どもの遊びを見取る力をつけ、子どもの興味関心に沿った教材を用意することで、遊びの広がりが見られる様になってきた。             | A    | A      |                                                                       |                                                                                                                                                                                                                          |            |                    |

## II 各領域に関わること

| 大項目              | 中項目                        | 評価指標                                                 | 園説明                                                                                                                                                                                                                                     | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員会から                                                                                                                                        | 改善策（来年度の具体的な取組目標等）                                                                                                                                                     |
|------------------|----------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 子どもの発達、育ちを共通理解し、一人一人に応じた教育・保育を行う                     | 園内研修の中で歳児別に発達の目安の確認をしたり、写真から子どもの思いを読み取る等育ちや遊びに関して細かな話し合いや子どもの姿の語り合いの時間を設けることで職員間での子ども理解が深まってきた。                                                                                                                                         | B    | B     | ・園内研修の中で、子どもの見取りや遊び地図を活用しての振り返り、公開保育と様々なことに取り組んでいると感じた<br>・以前寝不足で登園し、午睡後に起きられない子がいたが、本来おやつの時間になっていても休むことができるように対応してくれていて、子ども一人一人に寄り添っているのを感じ、有難かった | ・タ方の打ち合わせの時間を活用して、語り合いの時間を設け、日々の子どもの姿を伝えてきた。また園内研修でも、子どもの育ちや遊びの様子についても話し合いができていて、引き続き実施していくことで、子ども理解を深めていきたい                                                           |
|                  | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮  | 一人一人の健康状態や生活リズムを大切にしながら、安心して園生活が送れるようにする             | 送迎時やコドモンを通じて、保護者と密に連絡を取り、子どもの健康状態や生活リズムを把握していった。また個々の食事量や休息時間にも配慮し、甘えたい気持ちを受け止めていったことで、安心して園生活が送れるようになってきている。                                                                                                                           | A    | A     |                                                                                                                                                    | ・受け入れの際、子どもの健康状態や様子を保護者から丁寧に聞き取り、子どもの姿に合わせて教育・保育ができるよう、今後も職員が連携し子どもに寄り添った教育・保育をしていきたい                                                                                  |
|                  | (3)環境を通して行う教育及び保育          | 「おもしろい」「やってみたい」を引き出すような魅力的な環境を朝から構成していく              | 朝の遊び出し環境を整えることで昨日の続きの遊びが楽しめる環境が用意され、登園してすぐ自分から遊び始める子どもの姿見られるようになった。異年齢の遊びを見て、刺激を受け、真似したり「おもしろい」「やってみたい」と興味を持ちたりと、挑戦する姿が見られるようになった。                                                                                                      | B    | A     |                                                                                                                                                    | ・引き続き、写真等を活用して環境図を周知したり、正規職員だけではなく全職員で協力して、環境づくりを進めていくことができるよう、体制を整えていきたい                                                                                              |
| 2 安全管理・指導        | (1)事故防止・防災                 | ヒヤリハット記録の分析、改善を繰り返しながら、小さな気付きを伝え合い、安全に対する意識を高めていく    | ヒヤリハットがあった時には、すぐに記録用紙に記入し、帰りの打ち合わせ等で共有していった。また些細なことでもヒヤリハットとして記入していくことで職員の安全に対する意識が高まった。対応を迅速化することで危機管理意識を高め、事故防止につなげていくことができた。                                                                                                         | B    | B     | ・ヒヤリハットを即座に職員間で共有し、改善策を話し合っているのが良い                                                                                                                 | ・月に1人1枚の記入を呼びかけたことで、ヒヤリハットの提出が増え、危機管理の意識が高まった。引き続き、ヒヤリハットの記入をしながら危機管理意識を持ち、事故防止に努めていきたい<br>・ヒヤリハットとしてあがった事柄について、職員間で改善策を話し合い、共有する時間を設けていく（打ち合わせファイルでの共有は継続していく）        |
| 3 保健管理・指導        | (1)健康教育の充実                 | 食育活動を通して、早寝早起き、朝食の大切さを子どもや保護者に伝え、基本的な生活習慣の自立を促していく   | 月1回の食育活動の中で食に関する基本的な生活習慣についてクイズやパネルを使い楽しみながら学ぶことができた。また保護者に対し、お知らせボードを使って啓発していくことで、降園時親子で給食サンプルを見て会話のやりとりを楽しむ姿が見られた。                                                                                                                    | A    | A     | ・前年度の改善策がどのように改善されたのかが、評価書に記載されると良いと思う                                                                                                             | ・偏食のある子どもも多く、食に関して家庭へのサポートの役割も担えているので、懇談会や送迎時に食に関する話をする等、食に関しての保護者支援にも力を入れていきたい                                                                                        |
| 4 特別支援教育・保育      | (1)支援体制づくりの推進              | 園児の姿について、情報交換を密にしたたり、特性や支援方法を全職員で共有したりして、支援体制を強化していく | 今年度より月1回のケース会議の前に、支援会議という形で支援方法を検討したり、悩みを相談したりする場を設けていったことで、全職員での子ども理解が深まり支援強化に繋がっていった。また応用行動分析を行い、子どもへの対応を職員会議の中で話し合っていたことで、効果的に子どもの良い行動を引き出すことができた。                                                                                   | B    | A     | ・特別支援学級ではないが、静かに困っている子もいるので、小学校でも誰も取り残さないように対応していきたいと思う                                                                                            | ・支援計画の立て方やストラテジーシート、ABC記録の記入方法等、配慮が必要な子どもの支援方法を職員間で学び合い、悩みや解決策を共有しながら、実践につなげていきたい                                                                                      |
| 5 組織運営           | (1)組織体制の充実                 | 全職員が自ら園務分掌に責任をもち、連携しながら運営を進める                        | 各分掌が年間計画に沿って企画運営し、実施後には評価・反省を行い、改善策を検討しながら、来年度に活かせるようにしている。分掌を進める職員に偏りが生じている為、協力体制を強化し、情報共有を図りながら連携を深めていきたい。                                                                                                                            | B    | A     |                                                                                                                                                    | ・行事に関しては必ず2人以上で実施し、経験の有無も考慮しながら担当する人員を考えていくようにする                                                                                                                       |
| 6 研 修            | (1)研修体制の充実                 | 日々、手立てに対して成果、課題を振り返り、研修での学びを保育に活かしていく                | 研修テーマの手立てに即して、週日案の中で日々の教育・保育の振り返りを行うことで成果や課題が明確になり、保育が組み立てやすくなった。また園内研修での学びを自分の学年に置き換えて実践していくことで、より子どもの発達に沿った関わりができるようになった。                                                                                                             | B    | B     |                                                                                                                                                    | ・園内研修で各歳児ごと子どもの姿の見取りをすることで、担任がクラスでの教育・保育を見直し、環境構成や援助の方法について、より意識して保育したり、実践につなげたりすることができた。引き続き園内研修に充実を図り、日々の教育・保育に活かしていきたい                                              |
| 7 教育・保育環境整備      | (1)教育・保育環境の充実              | 子どもの興味関心や遊びの中で何を楽しんでいるかを捉えながら、工夫して園庭環境を構成していく        | 子どもの遊びの様子を写真にとり、その姿から子どもの興味関心を捉え、何を楽しんでいるのかを見取することで、“楽しい”を広げるための環境構成について考えることができた。引き続き、登園後子どもがすぐに興味を持って遊び出せるような環境設定を考えていきたい。                                                                                                            | B    | B     | ・家庭ときめ細かなやりとりの中で家庭と協力して保育を進めていると感じた                                                                                                                | ・保育教諭も一緒に遊びを楽しむことで、子どもが何を楽しんでいるのかを見取できるようになった。更に子どもの興味関心に合わせた教材研究や環境設定の仕方について、工夫をしていきたい                                                                                |
| 8 家庭との連携・協力      | (1)家庭教育への支援機能の充実           | 写真やおたよりを活用して園での取り組みや日々の子どもの姿について伝え、子どもの育ちを共有していく     | お知らせボードやお便り、コドモンを活用して子どもの様子や成長を保護者に伝えることができていて、また面談や参加会において保護者と個別に話をする場を設けることで、より深く子どもの姿や育ちについて共有したり、子育ての悩みを聞いたりして保護者支援ができた。                                                                                                            | B    | A     | ・小学校や近隣園との交流も増えていて良い<br>・スタートカリキュラムについて、小学校と一緒に考えていけたら良いと思う                                                                                        | ・掲示物や連絡ノート、送迎時の伝え合い、面談で話をする機会を設け、子どもの成長や子育ての悩み等についても保護者と共有し、サポートができていて、引き続き保護者支援の充実を図ってきたい                                                                             |
| 9 近隣の学校との連携      | (1)近隣の園との連携の推進             | 地域の小学区を身近に感じられるよう、小学校へ散歩に出掛けたり、近隣園と交流したりして、連携を深めていく、 | 夏祭りに1年生を招き年長児との交流や庵原小学校5年生、1年生との交流を実施。10月以降、散歩や学校訪問での授業見学、図書室訪問、トイレの使用、原こども園とのタブレットを使用した交流を行い、小学校への期待を膨らめ、垣根を低くすることに努めた。                                                                                                                | A    | A     |                                                                                                                                                    | ・10月以降より小学校へのアプローチを増やし、交流を深めることができた。来年度は4月の時点で計画を立て、公邸で遊ばせていただける機会を作ったり、行事を見に活かせていただく等、今年度にも増して交流を深められるようにしていきたい<br>・近隣園と関わる機会も増やしていきたい（散歩での行き来をする、タブレットでの交流を年間通して行う等） |
| 10 地域との連携        | (1)信頼される園づくりの推進            | 地域とのつながりを大切にし、自然や資源を活かした活動を広げながら、体験的な学びを深めていく        | JA協力の下半づる差し、プラム狩り、みかん名札付け、芋掘り、みかん狩りを実施。一乗寺でおしゃべりサロンのチラシを配布してもらったり地域へ園だよりを発信したりしている。お楽しみ会では地域資源を活用し、フラダンスや太鼓を間近で見ることができ体験に繋がっている。散歩では地域の自然を活用あい、一乗寺、近隣神社、川でのザリガニ釣り等を実施することで、園の取り組みを紹介することもできている。節分等の行事の際には近隣神社に協力してもらったり地域とのつながりが深まってきた。 | A    | A     | ・小学校のイメージが出来楽しい所と認識するようになってきているのが喜ばしいので、引き続き訪問していけると良い                                                                                             | ・年長だけではなく他の学年も地域の方々との関わりが持てるよう、触れ合える機会を増やしていきたい（絵本の読み聞かせをお願いする・散歩先での触れ合い・農家の方にクッキングの仕方を教えていただく等）                                                                       |